# 平成２６年度　土浦日本大学中等教育学校自己評価票

| | |
|---|---|
| 本校の目指す学校像 | 土浦日本大学学園建学の精神に基づき自主自立の気風を養い、中等普通教育及び高等普通教育並びに専門教育を一貫して教育することによって世界の平和と人類の福祉に寄与しうる人材の育成をはかり、社会に貢献することを目的とする。目的実現のため次の目標を掲げるものとする。<br>（１）豊かな語学力を習得し、世界の人々と対話のできる日本人を目指します<br>（２）自分たちを育てた文化や社会を理解し日本の素晴らしさを世界に発信します<br>（３）複雑化した現代社会を生き抜くために、教養を磨きさらに得意分野を生かした高度な専門知識を身につけます<br>（４）読書、絵画、音楽等を通じて芸術や文化を愛し理解する心を磨き、みずみずしい感性を養います<br>（５）さまざまな危機に直面する地球環境をつねに心の片隅において行動のできる人、地球にやさしい人を目指します |

| | |
|---|---|
| 本校の特長及び課題 | （１）夢を実現する確かな『学力』の育成<br>（２）世界に向かって発信できる『国際力』の育成<br>（３）茨城県で最初に認可された中等教育学校である。リーダーとして、たくましく活動できる『人間力』の育成<br>◇平成２６年度の教育活動及び運営の活性化のための戦略◇<br>◎東大を目指せ！ハーバードを目指せ！日大医学部を目指せ！<br>・中等生の高い進路実現を確固としたものとするため，課外学習の充実<br>・部活動後の課外選択を可能とする夜課外，よる学習の導入<br>◎２年連続 80 人台の入学者数からの脱却<br>・教師の気持ちや立ち居振る舞いの変化と，研修への積極的参加を通じて，保護者のニーズに応える<br>・少子化の波を乗り越えるために学力の向上，中等の変化をアピールしていく<br>・一丸となって学習指導，生徒指導にあたることで私学としての学力の向上と価値の創出<br>◎品格ある生徒指導を通して、清々しい姿形の生徒を育成する教育力の創出<br>平成 26 年度は上記の育成課題を念頭におき教育活動に取組んできた。ゼロ目標の達成に関しては今一歩のところであるが、1 期生から続いてきた日本大学医学部への進学が昨年度途絶えてしまったことが今年度は達成することができた。また，1 期生以来東大二次受験者がいなかったが，今年度は２名の生徒が東大受験にまで到達し進学校としての形ができはじめた。本校はまだまだ経験の浅い先生方が多くいるので、常に自己研鑽に取組む姿勢を堅持し、指導力の優れた教員になるべく常に努力する姿勢を持った教員集団にすることが本校にとっての大きな課題である。 |

平成２６年度の取組結果

| 評価項目 | 取組目標 | 取組結果 | 達成状況 |
|---|---|---|---|
| 教育活動（教務） | ・課外授業の拡充に伴う学力の向上<br>・難関大学進学指導のシステム化<br>・教務事務の流動化と管理の徹底 | ・朝課外，放課後課外，夜課外，そしてよる学習という学習の場の拡充を通して学校全体に学習する雰囲気が醸成された。<br>・難関大学進学指導の面で成功した部分と連携が密に取れなかった部分があったが，五教科の力を示す国立大学の合格者数など一定の成果を達成した。<br>・教務事務については固定化された業務を流動化していく端緒を築くことができた。また，教務事務に関わる書類の管理も徹底することができた | A |
| 学校生活への配慮（生徒指導） | ・いじめ撲滅<br>・清楚な中等生の確立<br>・挨拶の励行 | ・いじめ防止委員会を毎月開催し，情報の共有化とともにＰＤＳＣサイクルができはじめた。<br>・保護者の方々からも制服の着こなしについて一定の評価を得られるようになった。一部の生徒に対して今後も指導をしていく。<br>・生徒自ら挨拶運動を行うなど一定の成果を得た | A |

| 評価項目 | 取組目標 | 取組結果 | 達成状況 |
|---|---|---|---|
| 生徒会・部活動 | ・生徒会活動の活性化<br>・委員会活動の活発化と生徒意見の反映<br>・学校行事，クラブ活動の充実 | ・留学生送別会では生徒会が中心となり成功裏に終わった。<br>・生徒会ニュースを作成し，動画で生徒へ生徒会活動をアピールすることができた。<br>・卒業を送る会で映像作品を上映し，新しい送別会の形を作ることができた。<br>・スキーを始め各部活動で対外的な成果を挙げた。 | B |
| 進路指導 | ・望ましい職業観の育成<br>・進路適正指導<br>・積極的な進路指導<br>・保護者による進路講演会実施 | ・進路別担当者を決め，６学年と連携して指導を行った。<br>・模試，進路適性検査，各種講演会，志望理由書，小論文指導を有機的に結びつけ個々の生徒の進路意識醸成，深化を心がけて指導した。<br>・朝７時半からＣＰＣを開放し常時２０人規模の自習時間を確保した | B |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 保健・衛生 | ・適切な健康診断の実施<br>・健康管理への配慮<br>・教育相談の充実 | ・保健室利用記録を週に１度，校長に報告できた。<br>・宿泊研修の引率で対応，相談体制の確立により安全安心な研修を実施できた。<br>・保健室利用記録及び朝の健康観察票をもとに教員の中でも生徒の健康状態，心理状態に関心を持つ人が増えてきた。 | **B** |
| 図書 | ・読書案内の充実<br>・図書館活用率の向上<br>・図書委員活動の活発化 | ・文学作品が蔵書として増加し利用者数も増えた。<br>・低学年で図書室に来る習慣が確立できた。<br>・ブックレビューカードのデータ化が進んだ。<br>・昨年から図書案内を各教室に掲示することで図書委員の活動が認知されるようになった。<br>・不明図書の件数を減らすことが懸案事項である。 | B |
| 広報 | ・教育目標, 理念, 特色の周知<br>・塾や小学校との連携<br>・ホームページなどでの広報強化 | ・エリア担当２年目として広く且つ数多くの塾を訪問することができた。<br>・エリア会議も毎週開くことで各地区の情報伝達を含め連携がうまくいった。<br>・志願者数で推薦入試 68 名，第１回一般入試 182 名，ＳＡＴ入試 212 名，第２回一般入試 168 名と昨年度を大幅に上回る成果を挙げた。入学者数も３年ぶりに 110 台にのることができた。 | **A** |

| 評価項目 | 取組目標 | 取組結果 | 達成状況 |
|---|---|---|---|
| 管理運営 | ・教育方針の浸透<br>・会議の活性化<br>・校務分掌機能の円滑化<br>・教員研修の充実 | ・教育方針の浸透，会議の活性化については問題は無い。<br>・自己評価から自己改善につながる姿勢が求められる。<br>・外部の研修会に参加する教員も出てきたが，今後複数の先生方がこのような研修会に参加することが求められる。<br>・学習については，学習指導担当部署を新設し先生方の献身的な取り組みで課外が充実した。その結果として，理系では全ての科目において全付属の平均点を超えることができた。<br>《文系》国語 53.0，英語 54.8，数学 50.4，日本史 52.9，世界史 47.8，倫政 49.7，地理 62.3 | B |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 《理系》国語 51.6，英語 54.8，数学 53.1，物理 61.6，化学 50.2，生物 51.1<br>・募集活動において副校長自ら近隣の小学校を訪問することで地域の評判が向上し，地元からの受験生が増加した。 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 庶務 | ・父母組織の円滑化<br>・防災，環境美化の推進<br>・各儀式の運営 | ・同窓会の立ち上げ，ホームカミングデーの実施など大きな一歩を踏み出した。<br>・保護者と教師の会の活動は定着してきており，円滑に進んでいる。<br>・清掃用具の整備については 12 年目を迎えて対応が必要な磁気になっている。<br>・卒業式は例年以上にしっかりとした形で挙行することができた。 | B |
| 学年 | ・学年クラス目標の浸透と経営総括の共有化<br>・学年間連携協力体制の強化<br>・保護者との連携強化<br>・進路実績の飛躍向上 | ・前期課程、後期課程共におおむね年間目標を達成することができた<br>・ほぼ全ての学年で学力の向上が見られ始めている。<br>・前期課程では生徒指導面で苦慮する場面が見られた。<br>・今年度の平均化された進路実績の獲得<br>日本大学医学部合格を初め，日大全ての学部に 61 名合格，早稲田・慶応・上智に 7 名，理科大学 6 名合格をはじめ，最難関及び難関私大に 28 名合格した。また，国公立大学は，東京工業大学，筑波大など，計 15 名の国公立大合格者が出た。 | B |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 達成状況評価基準 | A | 取組目標が十分達成された | 「よくできている」「できている」割合が 90%以上 |
| | B | 概ね達成された | 「よくできている」「できている」割合が 80%以上 |
| | C | 課題を多く残している | 「よくできている」「できている」割合が 70%以上 |
| | D | 成果が出ていない | 「よくできている」「できている」割合が 70%未満 |